

VI 参考資料

1 先進事例・参考事例

(1) 国内事例

国内の先進事例・参考事例として、以下の事例の概要を紹介する。

表VI-1-1 国内の先進事例・参考事例

NO	公園名称	広場名称等	公園種別	公園面積	広場面積	特色
1)	都立砧公園	みんなのひろば	広域公園	約39.2ha	約4,000㎡	都として、本格的に整備した第1号。
2)	都立府中の森公園	にじいろ広場	総合公園	約17.1ha	約4,000㎡ (図測)	砧公園に次いで令和3年度に整備。
3)	国営昭和記念公園	わんぱくゆうぐ	国営公園	約165.3ha	約4,000㎡ (図測)	先駆け的な事例。平成13年度に整備。
4)	練馬区立豊玉公園	— (通称タコ公園)	街区公園	約2,100㎡	—	当初からユニバーサルデザインに基づき設計。平成21年に整備。
5)	世田谷区立二子玉川公園	遊具の広場	地区公園	約6.3ha	約750㎡	平成24年度に整備。砂場、水遊び場などにユニバーサルデザイン。
6)	豊島区立としまキッズパーク	—	街区公園	約1,000㎡	—	令和2年度に整備。ブランコや砂場などにユニバーサルデザイン。
7)	札幌市立藤野むくどり公園	—	街区公園	約750㎡	—	平成8年に開園。草分け的な整備事例。
8)	一関市立一関遊水地記念緑地公園	オーストラリア・ジャパン・フレンドシップ・パーク	総合公園	約14.24ha	約0.1ha (図測)	先進国、オーストラリアのノウハウを展開する事例。
9)	藤沢市立秋葉台公園	—	運動公園	約7.7ha	約0.27ha	複合遊具、ブランコ、スウィング遊具、回転遊具など。令和3年3月改修整備。
10)	品川区の取組	—	—	令和3年度に、最初の改修公園として大井坂下公園(街区公園)を整備	—	子どもたちのアイデアでユニバーサルデザイン公園を実現する取組。

VI 参考資料

11)	シンボル プロムナ ード公園	インクル ーシブ・ プレイグ ラウンド (期間限 定)	海上公園	約 29.4ha	約 4,500 m ²	一定期間、公園に遊具 を設置。遊び場の検証 を行った。
12)	都立 舎人公園	冒険の丘	総合公園	約 63.1ha	約 10,000 m ²	歴史をモチーフとして 整備

1) 都立砧公園 みんなのひろば



約 4,000 m²のスペースに、ユニバーサルデザインに配慮した遊具が多数配置されている。

■位置図



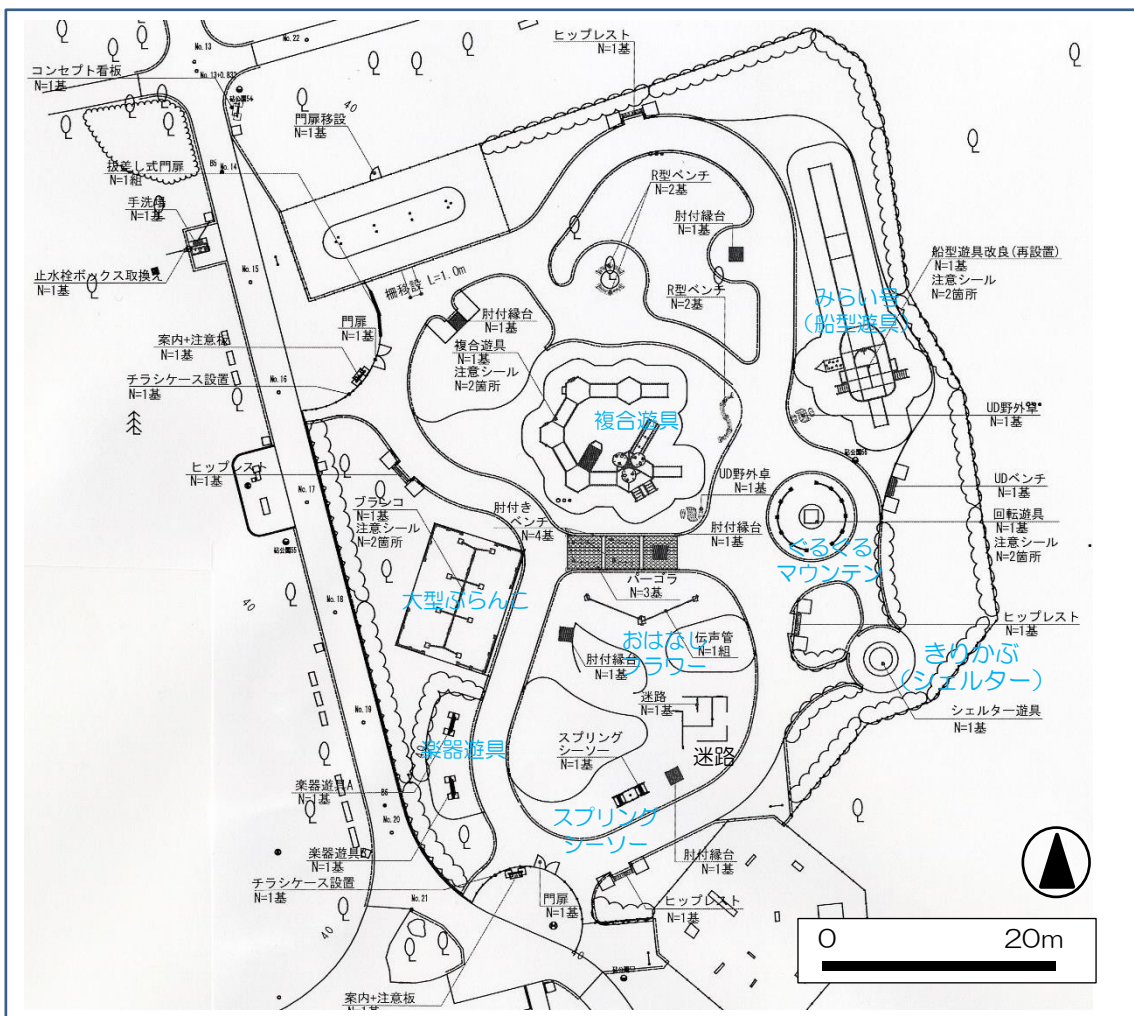
■施設概要

公園名	都立砧公園	広場名	みんなのひろば
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	令和2（2020）年3月	公園種別	広域公園
公園面積	39.2ha（開園面積）	広場面積	約 4,000 m ² 外周の柵内の面積は 3,200 m ²
開園時間等	夏 9：00-17：00 冬 9：00～16：00 無料。400m離れて公園管理事務所。		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 東京都は、障がいの有無にかかわらず、あらゆる子ども達が共にあそび、楽しむことができる遊具広場の整備に取り組んでおり、その第1号としてオープンした施設。 整備に先立ち、さまざまな子どもの障がい関係者へのヒアリング及び有識者への意見聴取を行い、整備の方向性を検討した。 意見聴取の結果、障がいの種類が異なっても、「体幹の弱さに対応した遊具」や、「介助者との使用」、「ハイハイできるクッション素材の舗装」、「迷子や飛び出し防止の囲い」等の共通する意見が得られた。また、遊具広場以外にも、アクセスやトイレの施設内容などの共通意見もあり、それらを整備に反映させている。 		
主な UD 遊具等	複合遊具 伝声管 休憩施設	ブランコ パネル遊具（迷路など） 居心地の良い遊具	回転遊具 揺動遊具 等 楽器遊具 コージースポット

VI 参考資料

<p>管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砧公園の指定管理者である（公財）東京都公園協会が管理している。 ・ 夏（4～8月）は午前9時から午後5時まで、冬（9～3月）は午前9時から午後4時まで利用可能。 ・ 基本的には、自由に遊んでもらうこととしており、常時、職員やプレイワーカーを配置する対応は行っていない。 ・ 混雑時（およそ300人を超える利用者数）には、人数制限をかける予定としているが、現在まで人数制限をかけるに至っていない。 ・ 遊具の安全点検は、毎朝、開園前に行っている。 ・ 定期的に、利用状況のモニタリング調査を行っている。
<p>利用状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンから、多くの子ども達に利用され、人気の遊具は行列となることもある。 ・ 利用上の対応マニュアルなどは検討中である。 ・ 小さなトラブルなどは、子ども同士で順応して遊ぶ姿が見られる。 ・ 園内放送が聞き取りにくいせいか、閉園時間が近くなっても遊び続ける子ども達が多く、定時の閉園に苦労することが多い状況である。 ・ 人の少ない時間帯利用のニーズもあり、夏場の開園時間の延長を検討している。 ・ 年齢の高い障がい者への対応など今後検討課題になると思われる。

■ 平面図



■主な遊具



船型遊具「みらい号」（3～12才むけ）
車いすや歩行器でトップデッキにいき、幅
広の滑り台の滑降が楽しめる。



「みらい号」の幅2mのスロープ
車いすですれ違える広さがあり、海をイメ
ージしたパネルで演出している。



複合遊具（3～12才むけ）
複数のデッキはスロープで繋がり、車いすで
登り、滑り台の滑降が楽しめる。



スプリングシーソー（3～6才むけ）
幅が広く、乗り込みやすく、みんなで一緒
に利用できる。



ぐるぐるマウンテン（6～12才むけ）
背もたれシート、取手があり、乗りやすくみ
んなで回したり回されたりして楽しめる。



大型ブランコ（6～12才むけ）
円盤形、いす型、座板型の3種類から選べ
る。特に円盤型は人気がある。



おはなしフラワー（3～6才むけ）
管を通して話ができる。高さの異なる話口
がある。



楽器遊具 幼児向け（手前）と児童向け
（奥）の2台あり、背の高さで選択でき
る。ペダルを押す容易な操作で楽しめる。

VI 参考資料



迷路（3～12才むけ）
車いすも通りやすい幅。壁には、いろいろ仕掛けがあって、楽しみながら、迷路をぬけられるようになっている。



切りかぶ（シェルター遊具）
ごっこ遊びやクールダウンスポットとして利用できる。広場中心から少し離れた位置にある。

■主な施設



広場への園路と自転車置場
広場入口近くに自転車置場がある。広場内は自転車乗入れ禁止となっている。



出入口 人が溜まれるスペースがあり、段差なく広場に入れる。扉を開け閉めして、出入りする。



広場内の舗装 園路はアスファルト系舗装。遊具周りはゴムチップ舗装で、安全領域は必要に応じた厚さとなっている。



休憩スペース 手動で開け閉めできる日よけのパーゴラがある。ベンチは複数の種類があり選択できる。



外周の囲い 急な飛び出しや連れ去りのために設置。柵が目立たないように、前面に低木を植栽。



案内・表示 「みんなのひろば」の解説板があり、広場の遊び方、注意事項などを表示している。

2) 都立府中の森公園 にじいろ広場



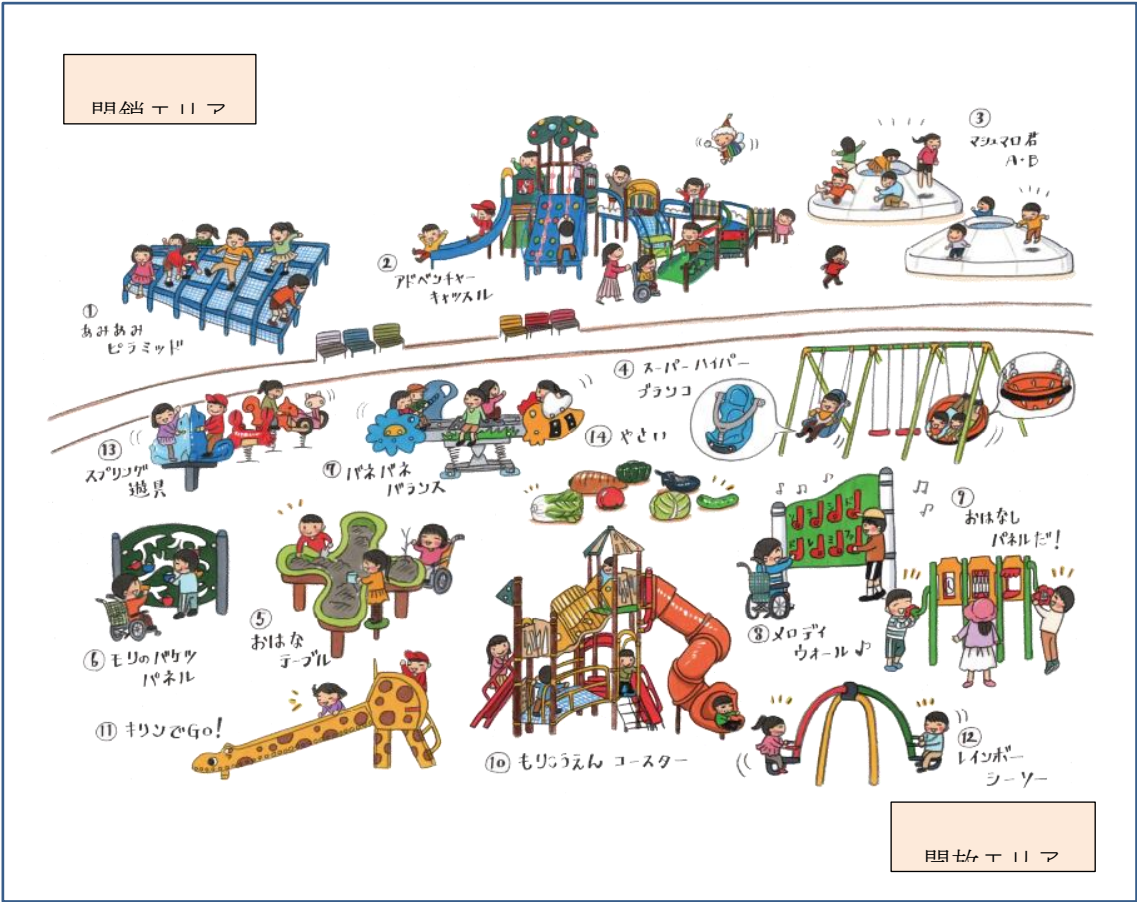
■位置図



■施設概要

公園名	都立府中の森公園	広場名	遊具広場(愛称:にじいろ広場)
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	令和3(2021)年	公園種別	総合公園
公園面積	17.1ha(開園面積)	広場面積	約0.5ha
開園時間等	夏 9:00-17:00 冬 9:00-16:00 無料		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・都立砧公園のみんなの広場に次いで、令和3年度に開園。 ・特別支援学校や福祉施設等を対象にヒアリング・意見交換を実施して運営方針を検討した。 ・広場名称や遊具の愛称等は、来園者や近隣の幼稚園、保育園の園児、小学校の児童の投票で決定。 ・従来からの遊具広場を既存の遊具で人気のあるものは残して「だれもが遊べる児童遊具広場」へ改修・整備。 		
主なUD遊具等	<p>【開放エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコ(いす型ハーネス付きブランコなど) ・スプリングシーソー ・メロディーパネル ・伝声管付パネル ・砂場(車いすのまま遊べるサンドテーブルあり) <p>【閉鎖エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合遊具(車いすでアクセス可能) ・トランポリン ・クライムネット 		
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・府中の森公園の指定管理者である(公財)東京都公園協会が管理している。 ・広場は、閉鎖エリアと24時間開放エリアに分かれている。 ・閉鎖エリアは、夏(4~8月)は午前9時から午後5時まで、冬(9~3月)は午前9時から午後4時まで利用可能。 ・基本的には、自由に遊んでもらうこととしており、プレイワーカーを配置していない。 ・遊具の安全点検は、開園前に行い、日中は警備員による巡回を行っている。 		
利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンから、多くの子どもたちに利用され、トランポリン、ブランコなどは行列となるため、回数制限や時間制限を設けている。 ・平日の利用状況は、午前中は未就学児、午後は小学生の利用が多い。 ・土日祝は年齢問わず午前中から多くの利用者で賑わう。 ・人気の遊具は複合遊具、トランポリン、ブランコなど。 ・開園後は、オープンイベントを開催。子どもたちが参加できる横断幕づくり、絵本の読み聞かせ等を実施、多くの参加者で賑わう。 ・広場のイラストマップや遊具の遊び方などを紹介するニュースレターを配布している。 ・キャラクターとめぐるクイズイベントなどを適宜開催している。 <p>【施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場(110台うち身障者用3台)から遊具広場までの園路はバリアフリーになっている。 ・広場付近のトイレはだれでもトイレと子ども用便座を設置している。 		

■ 遊具一覧



■ 主な遊具

【開放エリア】



いす型ハーネス付きブランコ
体幹が弱い子どもも揺れを楽しめる



スプリングシーソー
幅が広く介助者と一緒に乗ることができる



メロディーパネル



伝声管付きパネル



サンドテーブル
車いすのまま利用できる

【閉鎖エリア】



複合遊具
車いすのまま頂上まで登ることができる



クライムネット
寝転んで遊ぶことができる



トランポリン
降雨後は安全に利用できるよう
清掃をしている

■主な施設



立ち上がりやすいベンチ



バリアフリー対応の水飲み

3) 国営昭和記念公園 わんぱくゆうぐ



平成 25 年度にリニューアルされた、ユニバーサルデザインに対応した大型複合遊具。

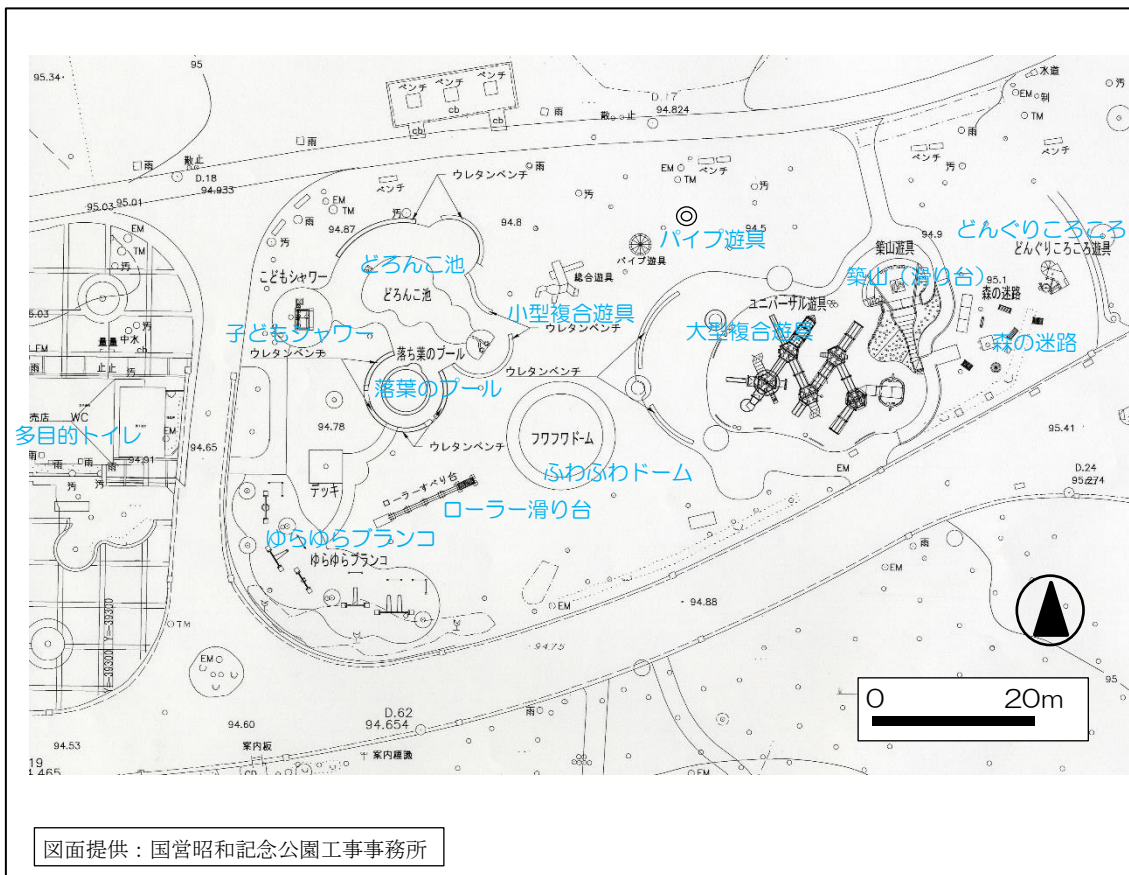
■施設概要

公園名	国営昭和記念公園	広場名	わんぱくゆうぐ
整備主体	国土交通省	管理団体	国営昭和記念公園管理センター
整備年次	広場改修は平成 13 年度	公園種別	国営公園
公園面積	約 165.3 ha	広場面積	約 4,000 m ² (図側)
開園時間等	国営公園の開園時間に同じ 国営公園の入園料 450 円 小人 0 円 シルバー 210 円		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> 公園内には「こどもの森」という遊び場があるが、西立川駅から遠いので「みんなの原っぱ」の南側に「わんぱくゆうぐ」がつけられた。 開園当初からあったが、平成 6 年度に、車椅子に乗った障がいのある子どもが、健常な子どもと一緒に遊べる遊具を導入した。 平成 10 年度に、誰もが安心して楽しめる公園（ユニバーサルデザイン）をコンセプトに、ハード整備・ソフト対策を進めるための「国営昭和記念公園バリアフリー関連施設整備基本計画」が策定された。 平成 13 年度には、障がいのある子どもも健常な子どもも共にチャレンジ精神を鼓舞しながら遊ぶことが可能な遊具を目指し、わんぱくゆうぐ周辺エリア全体を対象に改修が行われた。 計画・設計段階で、支援学校などの児童の参加によるワークショップが開催されている。また、平成 13 年度の改修設計時には、利用者ニーズに関して関係団体等よりヒアリングが行われた。 		
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> 現在、指定管理者が管理している。 通常は、プレイワーカーのような職員はおらず、自由な利用になっている。 360° 全方向の防犯カメラを設置している。管理所で確認しており、危険行為等があれば中央管理棟に詰めている職員が対応する。 終了時間の園内放送は、録音による 4 か国語で放送している。 		

■位置図



■平面図



■主な遊具



大型複合遊具 安全領域の面積は200㎡を越える大きさ。車いすでスロープを登り、滑り台で滑れる。



小型複合遊具 2連の滑り台がある。



ゆらゆらブランコ 椅子型、ポケット型のブランコがある。



ふわふわドーム 空気膜構造の遊具で、飛んだり跳ねたり、揺れたりして遊べる。縁を高くして移乗しやすくしている。



築山（滑り台） 幅が広いので、友達や保護者と一緒に滑れる。



ローラー滑り台 この滑り台は、一人で階段を登り、一人で滑り降りる。



どろんこ池 水と砂（土）の遊び場



砂場 囲いの周囲の通路に高低差をつけて、利用をしやすくしている。（当初は「落ち葉のプール」としてつくられた施設）



森の迷路 植込みで迷路をつくり、車いすでも楽しめる迷路がある。低い目線で植物が楽しめる。



どんぐりころころ 上部からどんぐり（普段は小石）を落として、音を楽しむ。

■主な施設



案内・表示 広場内の遊具の配置を解説した案内板。



子どもシャワー どろんこ池で汚れた手足を洗う。背後の建物はトイレと売店。着替えもできる。



デッキ状のベンチ 木陰もある。



遊具利用の案内板 下側の図は、立体的な図で、触地図になっている。



外柵 広い園路側なので、簡単な木杭の柵があるだけ。子ども飛び出しを防ぐ効果はある。外側は公園の園路。



広場内の彫刻 広場内にあった木をそのまま彫って彫刻としている。子ども達の目をひいている。

4) 練馬区立豊玉公園 通称タコ公園



通称タコ公園。ユニバーサルデザインに配慮した遊具や施設が各所に配置されている。

■施設概要

公園名	練馬区立豊玉公園 通称タコ公園	広場名	—
整備主体	練馬区 (福祉部経営課)	管理団体	練馬区
整備年次	平成 21 年	公園種別	街区公園
公園面積	約 2,100 m ²	広場面積	—
開園時間等	常時開園 無料		

整備の背景
整備概要

昭和 43 年に整備された公園。開園後 40 年以上経過したことを機に、みんなが楽しめる公園を実現するため、ユニバーサルデザインモデル公園として改修の検討が平成 19 年度から進められた。(財)練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター(現(公財)練馬区環境まちづくり公社)協力のもと、障がい者、高齢者、子育て世代など多様な立場の方や有識者が参加するワークショップ(みんなのタコ会議)により議論を重ねられ、平成 22 年度に現在の公園の形でリニューアルオープンした。

豊玉公園のシンボル「タコのすべり台」のほか、見ても触っても公園のことが分かる「触知板」、車いすやベビーカーでものぼれるスロープがついた「小さな山」など、それぞれユニバーサルデザインに配慮した施設が配置されている。

主なUD遊具 等

- ・ 椅子型ブランコ
- ・ 一緒に滑れる滑り台
- ・ 車椅子でも遊べる砂場
- ・ 触知板

管理運営
 練馬区が管理している。職員などは常駐しておらず、利用者の自由な利用となっている。



■主な遊具・施設



タコをデザインモチーフにした滑り台
滑降部が広く、友達や保護者等と一緒に滑ることができる。



幼児用の複合遊具 移乗用のデッキもついている。



タコの足をデザインしたスロープ 車いす
でスロープの昇り降りを楽しめる。



レイズド砂場 車いす使用者も利用できる。



体幹の弱い子ども乗れる椅子型ブランコ
椅子型ハーネス付



バリアフリースイレ 識別しやすい色彩を
使用している。



案内板 触知図と点字で表示している。
出入口の2カ所に設置されている。



自転車置場と傾斜路 広場内への自転車乗
入を禁止し、置場を整備。高低差があるので傾斜路を整備している。